

壁紙施工要領書

- さやか・コットン紙 -

【該当品番】(2013-2017WD)
LY-14461~14469

■和紙壁紙の特長

- ・コットン紙を使用した壁紙です。紙壁紙共通の、透湿性、伸縮性など（材料によって差はありますが）の特性がありますので、施工上の配慮が必要です。
- ・天然素材を主成分にしていますので、製造上色差が出る場合があります。あらかじめご了承ください。

■下地調整

- ・商品自体の厚みが薄いので、施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地面に汚れやチョーク等による文字などが残っている場合は除去するようにしてください。
- ・パテは下地と同色のものを使用するようにしてください。
- ・張り替えの際、裏打ち紙が下地面に浮いた状態で残っている場合は、必ず剥がしたあと施工するようにしてください。浮いた所の上で施工しますと、目開きの原因になります。

■接着剤

- ・糊付け機を使用しての糊付けは可能です。
- ・接着剤は、原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、糊：水＝10：6を目安にし多めに塗布してください。施工環境によりエチレン酢ビ系ボンドを混合してください。（このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要になります。）
- ・濃度の薄い糊は糊が紙に吸い込まれてしまい、接着力が落ちる他に、壁紙を余計に延ばして後の目開きの原因にもなります。
- ・粘りの強い糊を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に糊などをつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・紙素材の壁紙は透湿性があるため、糊の付け溜めはききませんが、材料の柔軟性と施工性の向上のため、オープンタイムは欠かせません。材料の透湿度や伸縮性、気温、湿度等を考慮し、適切なオープンタイムを取るようにしてください。(材料がしんなりした頃が張り頃です。)
- ・接着剤塗布後は、うませ時間を 5～10 分程度、施工可能時間は 40 分以内を目安に作業を進めてください。
- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ジョイント部分は重ね張りまたは突き付けで納めるようにしてください。(重ね張りの場合は、部屋に入る光線の角度によってジョイントが目立つことがありますので、張り出す順番を考慮しながら張るようにしてください。)また、目地をとる施工もおすすです。
- ・表面が傷つきやすいため、なで付けは柔らかめの刷毛を使用し、ていねいに行なってください。
- ・ジョイント部分のなで付けは横方向には行なわないようにしてください。材料を引っ張ってしまうことになり目開きの原因になります。
- ・ローラー掛けの際は柔らかいウレタン製のものを使用してください。あまり強く掛けますとテカリが発生してジョイント部分が目立ってしまうことがあります。当て紙などをするようにしてください。
- ・ジョイントが目立ちやすいためカッターの刃は薄刃のものを使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態で使用してください。
- ・粘着テープの使用は、テープを剥がした際に壁紙表面を破損するおそれがありますので、なるべく使用は控えるようにしてください。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。変色の原因になります。

■施工後

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。